

II 調査のあらまし

発掘調査地は、いわゆる「西の京」の一画にあたり、奈良盆地西部の比較的起伏に富んだ丘陵地（盆地との比高＝20m前後）にあって、西南から谷が入りこむ谷頭部分である。谷筋をふくむ一部と西南部分の傾斜面の他は水田である。

調査地は平城京発掘地割によって6AGQ地区とした。調査は畦畔に部分的に残っている条坊痕跡をもとにしてA～Hの発掘区を設け、F・G地区を主な調査対象とした。

A・B・Mトレンチ：調査地区でもっとも広い平坦地であるが、10cm程の表土直下で黄色の地山となり、建物・堀・井戸を検出した。しかし、平坦部の東半ではほとんど遺構はなく大部分は後世の削平を受けているらしい。

Lトレンチ：Aトレンチの西にあたり、2m程低い谷頭部分である。表土、暗褐色土（50cm）、灰褐色土（15cm）、黄褐色地山の順に堆積土があり、地山は南に下降する。灰褐色土上面で建物、井戸、墓墳などを検出した。

Dトレンチ：推定小路の交叉部分で、現状は平坦地であるが地山は南東方向に下降しており、近世の遺物を含む灰褐色土で整地されている。地山面で土壌等を検出した。

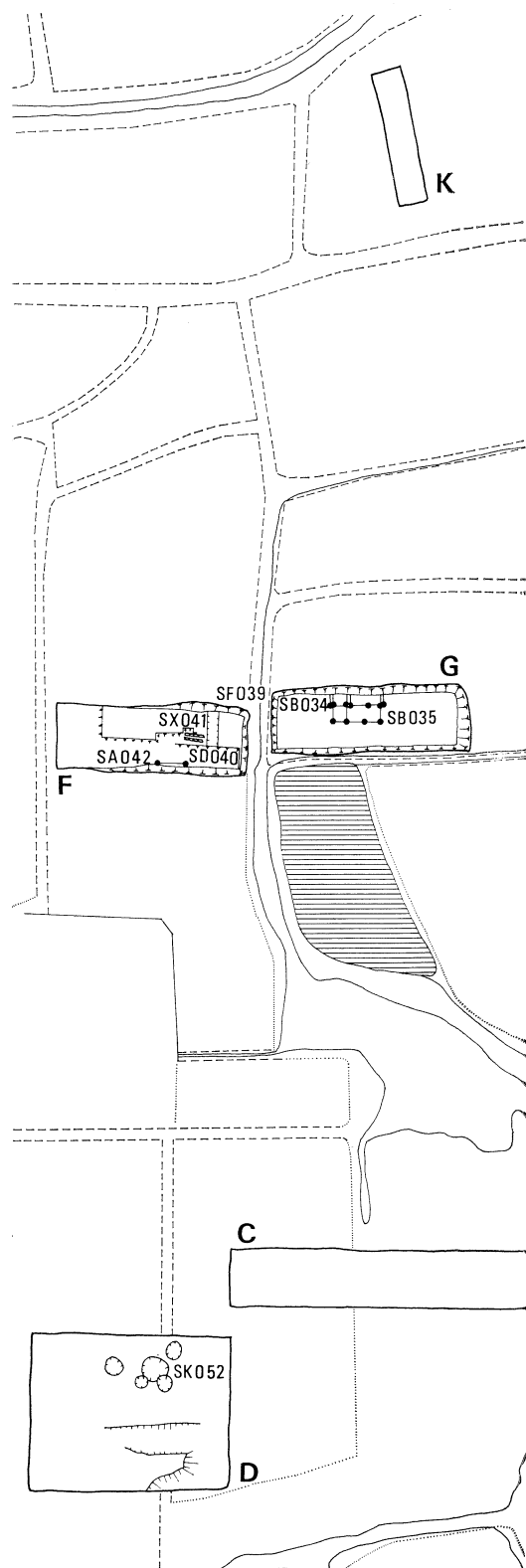
C・Eトレンチ：Dトレンチの東側の二個所に設けたが、いずれも東に続く傾斜する地山面を確認するにとどまった。

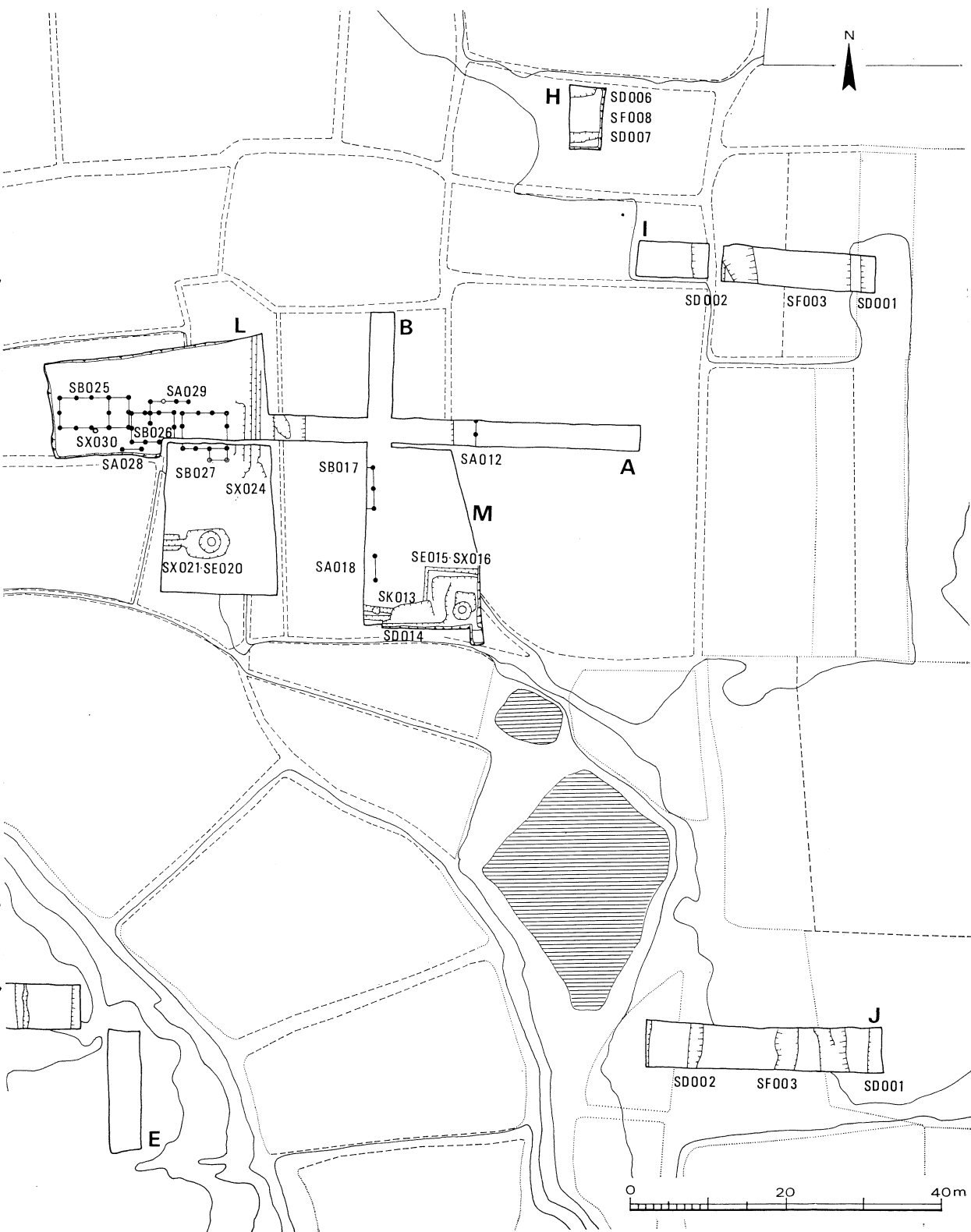
Gトレンチ：谷頭の平坦地で、Lトレンチの土層と連続する面での建物の柱穴を検出した。地山面は東西方向はほぼ水平で、南に向ってゆるく下降する。

Fトレンチ：推定南北小路位置にあたる。中世遺物を含む灰褐色土が東側に厚く、地山は谷に向って急な傾斜を示す。地山直上の暗褐色土面に南北溝、柱穴、石組暗渠を検出した。

I・Jトレンチ：推定三坊大路の位置にあたる。両トレンチの東端に連続するとみられる南北溝を検出した。なお、Iトレンチには暗褐色遺物包含層が全面に広がっていた。

H・Kトレンチ：推定東西小路にあたるが、表土、暗褐色土遺物包含層、暗褐色地山の順で堆積土がある。Hトレンチでは地山面で、平行する2条の東西溝を検出したが、Kトレンチではとくに遺構はなかった。





第2図 6 AGQ · FG地区 発掘遺構図